

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300980		
法人名	医療法人社団 井上会		
事業所名	みんなの光		
所在地	熊本県熊本市城南町今吉野806-1		
自己評価作成日	平成24年9月13日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内の廊下やリビングなど共有スペースが広々としている。バリアフリーになっている。家庭菜園がある。眺望が良い。料金が安い。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人病院・老人保健施設の一角に位置し、入居者と職員の関係でなく、「生活を共にする者同志として支える」という強い思いを日頃の介護のなかで実践に繋げるよう努力している。家族との信頼関係があり、コミュニケーションがとれ、意見要望を言い出し易い環境となっている。併設事業所との協力関係が築かれており、特に医療面では母体病院の全面的支援が得られ緊急時は24時間体制での支援もあり、家族の安心が得られている。ホーム内はゆったりとした空間があり、リビングの窓からの眺めは素晴らしく入居者の寛ぎの場所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く所に理念を掲げ日頃より意識付けし、申し送り時や勉強会時に、方針や目標を話し合っている。	発足当時につくられた理念に謳われている「家庭的雰囲気づくり」を主体とし、入居者と職員の関係でなく、生活を共にする者同志の生活の場としての意識づけが行われ、理念の実現に努めている。	職員全体が理念の目指すものを理解し意識づけにつとめ、ケアの実践に繋げられるように、継続した指導が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の住人とは挨拶は交わしている。地域の一員としては、法人全体で幼稚園児の慰問を受けたり婦人会の見学や夏祭りへの参加など交流している。	母体法人は地域に根差した病院であり、地元在住や近隣の関係者が勤務する等、地域になじみのある職員が多く、家族との関係づくりに役立っている。併設の老健で実施される行事に入居者も参加し、訪れた地域の人々との交流が図られている。また、町内の夏祭りには職員が参加しており、今後は状況を見ながら、入居者を伴っての参加を検討している。	地域の人々が気軽にホームを訪問できるよう、ホーム独自の行事を計画する等の、きっかけ作りや工夫をしホームも地域の一員としての交流が必要ではないかと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	恵まれた自然環境、人環境を生かしその人らしい生き方が出来るよう常に話し合い、地域貢献に繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症の理解を深め、それを踏まえてサービス提供するよう努めている。	運営推進会議は、家族全員に参加を呼び掛け2カ月に1回開催し、状況報告やケアの説明が行われ、家族からの希望や意見収集が行われているが、地域住民や関係機関からの参加がなく、外部からの情報や意見を活かした取り組みが、今ひとつ見られなかった。	会議には地域住民や関係機関の参加が望まれ、昨年に引き続き課題となっている。外部の多様な意見から、地域の情報を得、サービス向上に繋がるアイデアを得ることは多い。次年度の向けての改善を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所の担当部署は距離が近いこともあり時には文書を持参される事もある。当法人の担当者は、支所に赴き相談している。地域包括センターからの訪問もある。	政令都市に移行後、行政職員との交流は減少傾向にある。地域包括支援センターからの依頼はあるが、気軽に相談し合える関係づくりには無いように思えた。今後行政や包括支援センターとの関係づくりに努め、更なる連携の強化を期待したい。	包括支援センターと気軽に相談し合える関係を築き、相互協力ができるようになることを期待。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11項目の具体的な行為を理解しケアを実践している。玄関の施錠は、夜間のみである。	転倒などの危険性のある人や不穩がある人には見守りを大切にし早めの対応を心がけている。他の入居者が危険行為を知らせてくれることもあり、入居者同志の思いやりも芽生え入居者・職員一体となった見守りをしている。事業所内での勉強会はじっしされているが、外部研修の実施までには到っていない。スピーチロックはその都度指導し、束縛にならないように意識づけが行われている。	内部の勉強会だけでなく、外部研修も活用し、意識づけが行われると更に効果的と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で学び職員一人一人が、注意する様心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の支援相談員から概略を学び、利用者の状況を話し合い必要性の有無を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容と重要事項を説明し同意を得る事を基本としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他苦情相談窓口を設け、意見箱も設置している。	家族訪問の機会を重視し、コミュニケーションづくりに努めている。ティッシュペーパーを多く使う入居者に対して「トイレトペーパーを使うようにしたら良い」と、長年、家庭介護を行ってきた家族からのアドバイスを得たり「忘れないように、毎日孫の名前を書かせてほしい」等、細やかな要望もあり、家族が意見・要望を言い出し易い雰囲気が作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中等で発言する機会を設け、実態を把握し提案を受け入れるよう心掛けている。	毎日の申し送りや会議の際に職員の意見を聞き取るようにしている。入浴介助や排泄介助の方法等、ケアの方法についての意見や夜勤の業務内容の見直し、おやつ内容等の運営に関する意見もあり、実務への良い反映として活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭的な雰囲気大切にす為、自主的に居残りをしたり、急な欠勤にも対応できる状況を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やフォローアップ研修等に参加し内部での介護研修にも参加し、レベル向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や講演会などに参加し、他のホームの職員と情報交換などを行い、お互いにサービスの質の向上を図るよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症で意思の疎通が難しくても、仕草や表情を観察、傾聴する事で安心を得てもらい、本人の意思を引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、なんでも言い安い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な時は併設の病院や老健施設等の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に協力して掃除をしたり、洗濯物をたたんだり、料理の下ごしらえをしたりして支え合う関係を築く努力をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で、色々な相談や提案を互いに受け、話し合うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者を大切にし面会時間も制約していない。行き付けの美容院や衣類店などにも付き添っている。	家族の訪問はほぼ毎週見られ、友人・知人の訪問も多い。「自宅の様子を見に行きたい」「お墓参りに行きたい」等の要望があると、家族の協力を得て実現出来るよう努めている。馴染みの美容院や買い物は職員の送迎対応が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の時間やペースを大切にしながら、閉じ籠らないように声掛けし、リビングでの時間を多く持つよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院への入院時は必ず見舞い、遠くなければ他の病院へも見舞うよう努めている。家族への電話も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向をできるだけ傾聴し添うように努めている。困難な場合は家族の意向も踏まえ、本人の反応を確認しながら引き出すように努めている。	職員に対し「言葉一つ、態度ひとつで信頼関係が損なわれる」ことを伝え、入居者の思いを大切にするように指導している。「目に風を当てたい」と外に出ようとする入居者には、その都度一緒に外に出る等の対応をする一方で、その言動の背景にある寂しさを察知し、家族の訪問を促す等、想いに沿った支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で色々な事を引き出し、家族に尋ねたり、居宅のケアマネから情報を得たりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を充実、活用させ職員が情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の生活や会話の中で、気付いた事や家族から聞いた事などを話し合い介護計画に反映するよう努めている。	申し送り時に職員の意見を聞き取り、入居者一人ひとりの担当職員には、1週間毎の状態を要約して記録するように指導して、アセスメントに活用している。家族訪問時に家族の要望を聞き取り、担当者会議で介護計画を説明し、同意を得ている。	職員の記録の徹底を更に進め、記録能力を高めるために、内・外部研修が強化されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の個別性を高め、申し送り時に職員間で確認しあい、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や老健施設と行事を共同で行う等、多機能性を活かすよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員、ボランティア、警察、消防、文化教育機関との協力や介護支援センターのケアマネ、地域包括センターとの情報交換など行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院をかかりつけ医とし、総合的な医療を受けられ、夜間や急変にも対応できる事で本人家族に安心感を得ている。	入居時にかかりつけ医の確認が実施されているが、母体病院を希望される方が多い。母体病院への受診は職員が同行し、受診内容は家族へ伝えている。他の病院受診は家族が付き添っているが、急変時は、母体病院が24時間対応しており、病院の職員の応援が得られる体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の外来看護師と連絡を密にし、情報提供、相談は常に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と診療情報や生活情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、まず併設病院へ搬送又は、往診を依頼している。入居時に家族に説明している。	重度化した場合や終末期には、母体病院へ入院する仕組みが作られており、ホームで看取りの対応は行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルがあり内部研修にて訓練を行っている。又、すぐに往診や入院が出来るよう連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練や通報訓練を行い、広域消防本部に連絡し指導を受けている。	法人全体で、年2回避難訓練を実施、消防署の助言を得ている。併設の事業所が同一敷地内にあり、法人全体の応援態勢が作られている。スプリンクラーも設置済み。	夜間等の避難を想定し、坂を登るよりも下の方策を考え、近隣への協力依頼も必要ではないかと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に努めている。入浴や排泄時は十分に羞恥心に配慮し対応している。声掛は個人名で呼んでいる。	入居者の人格を尊重し、言葉遣いや対応に留意するようにと、日々指導が行われている。特に個人情報等、うっかり漏らすことがないように、指導が行われている。	トイレ介助時、音頭取りのように「シッコ、シッコ、シッコ」と言いながら、トイレへ同行する様子が見られた。排泄介助は特に羞恥心に留意する必要がある、更なる表現の工夫が求められる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取り時間を掛ける事で、本人の思いや自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いや状態を考えながら個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を十分に聞いて、その日着る洋服を選ばせている。併設の老健施設にある理美容サービスを利用する事も出来る。行き付けの美容院にも付き添っている。整容確認を毎日行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を料理し、摂取能力に合った食形態で食べ、下膳できる方には手伝ってもらっている。	献立は母体病院と同じ内容で、長年の病院厨房勤務の経験を持つ職員が調理に対応している。栄養のバランスを考えた病院の献立に季節の野菜をプラスして、美味しい食事を提供している。調理や配膳に、入居者のできる力を活用できるように支援。おやつは季節感がある手づくりの物を心がけている。	職員も食事を共にしているが、入居者との会話も少なく静かな食事風景。メニューを伝えたり、会話を交わしたりしての食事で、更に楽しい雰囲気を感じられるよう工夫されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寒天やお茶ゼリー、フルーツジュース等で水分を補い、栄養については、管理栄養士の指導を受ける事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯科外来受診による口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	快適な排泄環境を作り、排泄パターンによる時間誘導や食前後、就寝前の声掛けなどで失敗を減らし、排泄動作も出来る事はして貰っている。	積極的におむつ外しに取り組み、入居時におむつ使用者も現在ではおむつ使用者が皆無となっている。時間を見計らってのトイレ誘導で、布パンツ着用へ転換が実現できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行い繊維質の多い食品や水分を多めに取ったり、一緒に歩いて運動するなど予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルサインを確認して異常がなければ、自由入浴を原則としている。	入浴時間や回数は、入居者の意向に沿って実施されている。拒否の人には時間を変え声かけすると「一番ならいる」等、その人に合った声かけが行われている。希望によっては毎日の入浴も対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさ、室温を考慮し、その方の状況、希望に応じ、休息したり眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日状態確認を行い、使用している薬については、看護師や薬剤師より情報を得医師の指示により服薬し、確認表で飲み忘れが無い様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道が好きな方は書道を、社交ダンスをされては社交ダンスのステップをしてもったり、気分転換に散歩に出かけたりして楽しく過ごしてもらうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設の行事に参加したり、庭園を散歩したり日向ぼっこをしたりしている。家族面会時に一緒に外出されたり、盆正月の一時帰宅など機会作りに努めている。	併設特養への行事参加や、ホーム周辺の散歩など、できる限り外出を行い、気分転換を図っている。夕方には不穏になりがちな入居者と散歩に出かける姿が見られた。入居者が希望する場所へは、家庭の協力を依頼し、外出できるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物ができる方には、家族に依頼して1000から2000円程度のお金を持たせてもらい、売店で職員と一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば先方の迷惑にならない時間帯に電話を取り次いでいる。本人が書いたメモを家族面会時に手渡す事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの眺めは季節感たっぷりです。特に桜が素晴らしい。家庭的な温かみのある空間作りに努めている。	廊下には、行事を楽しむ写真や入居者と共に作った折り紙が展示されているが、随分古く感じられ、季節毎の貼り替えがあると更に良いと思われた。リビングやトイレ、浴室は広く介助し易い。事務室のカウンターからは全室が見渡せる間取りになっており、夜間の見守りも容易で、事故防止に役立っている。	掲示物を季節毎に取り換えたり、花や小物類を配置し、温かみを感じられる空間づくりへの工夫が求められる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングがホールや廊下と一体化するような作りで、利用者相互の夫々の距離感を上手く取れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や愛着のある物など持込を容認している。	箆笥や馴染みの物が持ち込まれている部屋もあるが、やや殺風景な部屋が目立った。和室も2部屋あり、低いベットが設置されそれまでの畳生活を延長する対応が選択できる。また、排気臭に配慮し、常時換気扇がつけられた部屋が見られた。換気も大切だが、原因となる臭いを出さない対応への工夫も必要かと思われる。	家族の写真や馴染みの物の持ち込みを家族に依頼し、温かみのある部屋づくりに更に努力が必要と思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除ができる方には箆を渡し一緒にし、洗濯物を一緒にたたみ、下膳ができる方には、安全に出来るように手摺の設置や周辺の片付けなど配慮している。		